

市民の声

高島市入札制度について

今津町 Tさん

市が発注する工事の入札において、明らかに赤字受注と思われる入札が数多く見受けられる。市内の厳しい景気の低迷を反映して、生き残りを懸けてこのような状況が続いているが、本来の健全な会社経営は困難であり、また工物品質や安全対策等の低下を招くなど、建設業全体の信頼の失墜を危惧している。こうした低入札を防止するために、入札では調査基準価格が設定され、それを下回る入

札価格の場合は、調査し、仕様書に適合した履行が可能と判断されれば落札決定となる。しかし、正当な価格で、特に会社運営ができる価格であることを判断するためには、現行の調査設定額は曖昧で、判断基準も入札時に行う調査だけでは不十分であると思っている。調査対象工事については、工事完了後においても、調査時の提出資料と対象工事の社内の工事台帳等が一致しているかを確認する追跡調査を行うなど、市としての厳格な対応の必要性を指摘したい。

朽木 M・Kさん

間接民主主義において選挙権の行使は有権者にとって最大の義務であり、権利であることは周知のことです。しかしながら、喧騒のほんの数日間を過ぎるやいなや、静まり返った街のどこかでひそかに物事は進み、おのれは蚊帳の外との思いがあることも、多くの人々にとってはまた事実です。私もそういった思いで、議会というものに懐疑的な感情を持っていました。最近までは。

先日、とある市会議員と話をする機会を得ました。市政のあり方への考え方に

は種々食い違いもあるものの、一番印象的であったのが「いろいろな立場の人の本音をできるだけたくさん聞きたい。それを自分なりに咀嚼して実現するのが議員の仕事」という言葉でした。早速あなたの声を待っている市会議員を探してみましょう。意外にかかわりやすいぞ市議会！という印象です。きっと。

一票を投じて後は口を開けて待つ雛鳥でいるのではなく、民草の思いを掬い上げんとするその努力に声を上げて応えるのも、有権者の務めなのかもと。

編集後記

観測史上初めて国内で40・9度の猛暑日を記録した暑い8月の最終日より、市議会が開催され9月末までの1ヶ月、各議員が各々の専門分野による質問（質問頁参照）や、活動（委員会報告参照）をするともに、現在よりもより未来に誇れるまちづくりについて熱い想いを傾注した。

先輩達が築いてこられた我がまちが、住んでよかったと思われるまちになりたい、したいと心を引き締めながら議案の審議をしてきたが、国内だけでなく、市内でも騒がしく歓迎できない出来事が多かった。何だか平穏な日々こそ安心安全の住みよいまちと感じる日々でもある。

(保木)